

さらなる市民サービス向上へ

”図書館” 条例、賛成多数で可決

6月4日、武雄市の平成24年6月定例議会が開会し、条例議案4件、事件議案6件、予算議案(補正予算)3件等が上程されました。

その後、本会議で4日間の一般質問を行い、議案審議を1日はさんで、各委員会が2日間の審議を行いました。

に関する説明を行いました。

その中で、樋渡市長は、「武雄市図書館・歴史資料館設置条例の一部を改正する条例」の提案主旨を説明。カルチュア・コンビニエンス・クラブ株式会社(CCC)を指定管理者とする一連の運営スキームについて、「市民サービスの向上という観点から、各議員の活発な議論をお願いしたい」と述べました。

樋渡市長はそのほか、市庁舎の耐震対策や国保会計の健全化、武雄北方インター工業団地の早期分譲などの諸課題について、引き続き全力であたることを重ねて強調しました。

他の全議案は全会一致で可決

6月21日の本会議では、「武雄市図書館・歴史資料館設置条例の一部を改正する条例」賛成多数で可決し、その他全ての提出議案を全会一致で可決しました(いずれも原案どおり)。6月定例議会の詳細は、広報武雄8月号の「議会だより」でお伝えします。

三京ステンレス鋼管が進出

来年1月、地元から正規雇用

このほど、三京ステンレス鋼管株式会社(本社・東京都杉並区)が武雄工業団地(若木町)への工場設立を決定し、同社と武雄市との間で企業進出協定が締結されました。

6月7日には、武雄市役所で、



▲式典後の懇親会に臨む森川社長(右)と樋渡市長

同社の親会社である三京物産株式会社の森川純一社長と武雄市の樋渡啓祐市長が協定書への調印を行っています。

三京ステンレス鋼管は三京物産株式会社の子会社で、主に石油化学工業や造船業向けのシームレスステンレスパイプやチューブの製造販売を行っています。

三京ステンレス鋼管の新工場は、平成25年1月の操業開始を計画しており、地元から20人の新規雇用も予定しています。

放射線治療の第一人者が講演

震災がれき放射線は人体と同レベル



▲わかりやすい語り口で「放射線」について講演を行う中川恵一氏(5月26日 武雄市文化会館)

参加者に分かりやすく語りかけました。

科学的・客観的な判断を

中川氏は、科学的・客観的な情報の重要性を訴え、「放射線は自然界にも存在し、私たちは日常的に微量の放射線を浴びている。震災がれきから出る放射線は、実は私たち人間が出す放射線と同レベルであり、そうした科学的根拠を考えながら議論を進めていただきたい」と強調しました。

また、中川氏は、がれき受け入れの是非については、地域住民自身が判断すべきだとして、市民の議論への参加を呼びかけました。

東大・中川准教授が語る「放射線とは何か」

5月26日・27日の両日、それぞれ武雄市文化会館と朝日小学校において「震災がれき」に関する講演会が開催されました。福岡県北九州市でがれき受入れの是非について議論されていた時期でもあり、会場には多くの市民や報道関係者が詰めかけました。

「震災がれきは大丈夫？」と題するこの講演会の講師は、東京大学医学部准教授の中川恵一氏。放射線治療の第一人者で、武雄市の市政アドバイザーでもある立場から、「放射線とは何か」について



▲質疑応答の場も設けられ、多くの市民からのさまざまな声が上がった(5月27日 朝日小学校体育館)



▲新図書館構想での館内イメージ 壁面にも開架スペースを増設

同日午前10時に開会した本会議では、樋渡啓祐市長が提案事項

「図書館」を 全国初のロールモデルに